

「お茶大インデックス」（雇用環境整備指標）を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2014 年度 結果

「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日：2015 年 1 月 9 日（金）～2015 年 2 月 20 日（金）

調査方法：Excel で回答可能な「お茶大インデックス」をメールにて送付・回収

配布機関：科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業（H18～H22）採択 55 機関、及び
女性研究者研究活動支援事業選定（H23～H26）43 機関の計 98 機関

回収数：46 機関（回収率 46.9%）

お茶大インデックス評価結果 46 機関の回答割合と全体的経年変化

46 機関のお茶大インデックス評価結果について、50 項目それぞれに 3 つの選択肢の回答割合を算出した。各項目の回答割合を用いて図 1 を作成した。

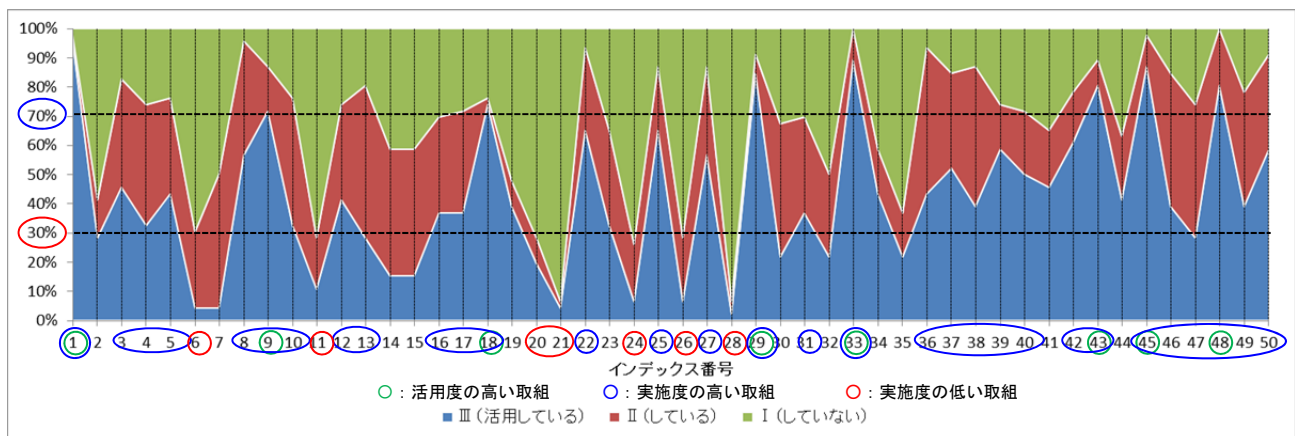


図 1. お茶大インデックス評価結果（全 46 機関、回答割合）

46 機関における活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答が多い項目）、実施度の高い取組（Ⅲ.活用している、Ⅱ.している）、低い取組（Ⅰ.していない）は以下の通り。（カッコはインデックス番号を示す）

活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答割合が 70%以上）

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (33) ホームページによる情報発信 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 |
| (18) 保育施設の設置 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |

実施度の高い取組（『Ⅲ.活用している』『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が 70%以上）

※赤字は昨年度（2013 年度）には認められなかった項目を示す。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| (3) 公正で透明性の高い公募を行うためのシステムの導入 | (31) 子育て中の女性研究者のキャリアアップ支援 |
| (4) 客観的に業績を評価するシステムの導入 | (36) 女性研究者を支援するためのロールモデル情報の発信 |
| (5) 女性を積極的に採用するシステムの導入 | (37) 女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携 |
| (8) 女性研究者における研究分野別・職階別の女性比率の把握 | (38) 女性研究者間のネットワーク構築 |
| (10) 業務を効率化するための取組 | (39) 女子中高校生向け体験授業（学内・学外）の開催 |
| (12) 定時帰宅日の設定 | (40) 女子中高校生向けロールモデル情報の発信 |
| (13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知 | (42) 女子中高校生向けイベント・シンポジウムの開催 |
| (16) 女性休養室の設置 | (46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発 |
| (17) 授乳室・多目的トイレの設置 | (47) 管理職向け両立支援に関する意識啓発 |
| (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 | (49) ダイバーシティを理解するための意識啓発 |
| (25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知 | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発 |
| (27) 子育てと研究のための相談窓口の設置 | |

実施度の低い取組 (『Ⅰ.していない』の回答割合が70%以上)

- | | |
|---------------------------|--------------------------------------|
| (6) 女性を管理職に登用するシステムの導入 | (24) 在宅勤務を可能にするための環境整備(ネット対応、TV 会議等) |
| (11) 会議に関する規則の設定 | (26) 出産・育児に配慮した業績評価制度の導入 |
| (20) 学童保育施設の設置 | (28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入 |
| (21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備 | |

「Ⅲ.活用している」(『Ⅲ.活用している』の回答割合が70%以上)の回答が多くみられたのは、インデックス番号(1)、(9)、(18)、(29)、(33)、(43)、(45)、(48)であり、昨年度と同様に「支援組織の設置」、「予算配分」、「研究補助者の配置」、「ホームページなどを用いた情報発信」、「男女共同参画やハラスメントにかかわる意識啓発」は実施度が高く、かつ、活用されていることがわかる。

実施度の高い取組(『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が70%以上)は、昨年度(2013)の9項目に加え、赤字で示す14項目が増加した。特にインデックス番号(8)、(29)、(33)、(36)、(45)、(48)では『Ⅲ.活用している』に『Ⅱ.している』を加えた場合の回答割合が90%以上を示しており、多くの機関で実施されていることがわかる。なお、図には示していないが、昨年度から得点が著しく上昇したのは、インデックス番号(39)、(40)、(42)、(46)、(47)、(48)であり、「次世代育成」や「意識啓発」に関わる取組が活発に実施されていた。

一方、実施度の低い取組は、昨年度と同様の「学童保育」、「宿泊施設」、「奨学金制度」に加え、インデックス番号(6)女性を管理職に登用するシステムの導入、(11)会議に関する規則の設定、(24)在宅勤務を可能にするユビキタス環境整備(ネット対応、TV 会議等)、(26)出産・育児に配慮した業績評価制度の導入、についても実施度は低くなり、管理職に女性を登用するシステムや規則・評価制度の導入・設定、経済的支援、設置場所の確保や多額の資金が必要な取組は未だ実施困難であることがわかる。

上記の結果から、女性研究者支援事業に採択された教育研究機関では、①支援組織を設置し、②予算配分や研究補助者を配置するとともに、③機関内で所有する情報(女性比率等)を整理して積極的に機関内外に発信し、④意識啓発を実施することにより、雇用環境の整備や女性研究者の支援を実施していると言える。特に組織整備や勤務体制、子育てや研究教育の支援と比較して「意識啓発」に関わる取組は実施度が高く、他の取組に比べ導入・実施が容易であると推察できる。しかし、女性研究者支援事業が開始されて10年近くが経過したにも関わらず、管理職に女性を登用するシステムや規則・評価制度の導入・設定、経済的支援、設置場所の確保や多くの資金が必要な取組は未だ実施が困難である状況も明るみとなり、これらの推進方法を改めて検討する必要があると言える。

お茶大インデックス 各機関の評価の経年変化

お茶大インデックス評価の経年変化を見るために、46機関のうち4年間(2011~2014)回答いただいた10機関についてのみ、4年間の総合得点平均値の推移および2013年度と2014年度の評価得点の差を算出し、得点の増減を示す図を作成した。

2011年度から2014年度の総合得点平均値の推移を図2-1に示す。4年間回答いただいた10機関の得点は年々上昇していることがわかる。また、4年間回答いただいた10機関における2014年度の総合得点平均値は、ほかの36機関と比較して高い値を示していることから、自己点検の結果を自機関の支援活動に反映し、活発な活動を実施していると推察できる。

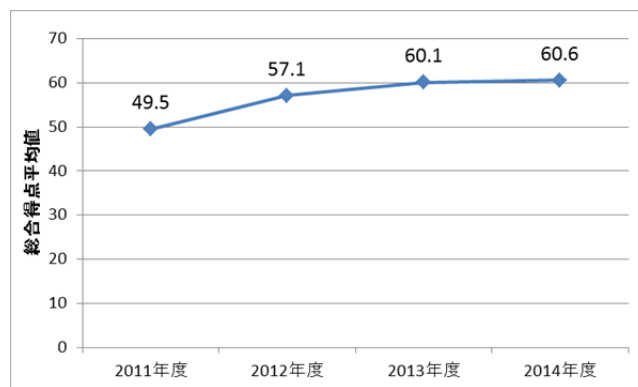


図 2-1. 10 機関におけるお茶大インデックス
総合得点平均値の推移

次に、2013 年度と 2014 年度の評価得点の増減を図 2-2 に示す。「次世代育成」を除いたすべての項目において得点が増加していることがわかる。総合得点では 10 機関中 4 機関が得点増を示し、組織、研究教育支援、情報支援ではそれぞれ 2 機関が得点増を示したことから、着実に支援活動は維持・推進されていると言える。

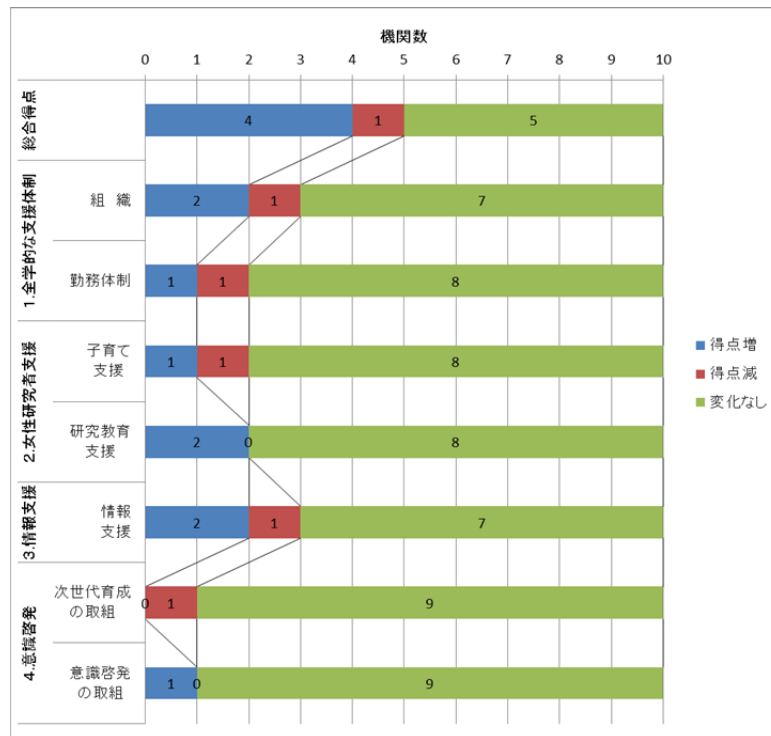


図 2-2. 10 機関におけるお茶大インデックス評価得点の増減（2013 年度→2014 年度）

さらに変化の詳細を確認するために、50 項目のインデックス評価得点それぞれにおいて 2013 年度評価と 2014 年度評価の得点差を算出し、得点の増減を示す図 3 を作成した。

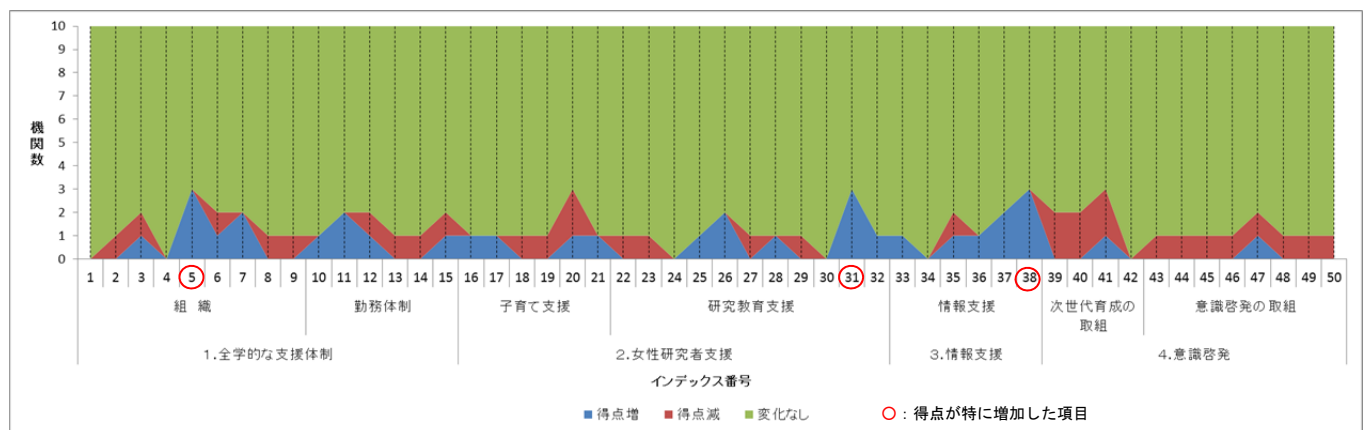


図 3. 10 機関におけるお茶大インデックス 50 項目の評価得点の増減（2013 年度→2014 年度）

得点の増加が多い項目は、インデックス番号（5）女性を積極的に採用するシステムの導入、（31）子育て中の女性研究者のキャリアアップ支援、（38）女性研究者間のネットワークの構築であった。女性研究者数を増加させる取組や女性研究者のキャリアアップ・ネットワークの拡大を目的とした取組が積極的に実施されている様子が見て取れる。なお、得点減の項目がいくつかみられるものの、2013 年度における 10 機関の総合得点平均値は 60.1 点であったのに対して 2014 年度は 60.6 点とやや上昇した。

お茶大インデックス評価結果 評価得点上位 10 機関・下位 10 機関の特徴

46 機関のうち、インデックスの評価得点上位 10 機関（平均 73.3 点/100 点中）の回答割合を用いて図 4 を作成し、評価得点下位 10 機関（平均 36.0 点/100 点中）の回答割合を用いて図 5 を作成した。

図 4 から、得点上位 10 機関においてもインデックス番号 (20) 学童保育施設の設置、(21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備、(28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入、の 3 項目は「I.していない」の回答が多い。この結果は 2011 年度から変化しておらず、育児に対する奨学金制度や施設・設備の整備は支援活動が充実している機関においても実施困難であることがわかる。

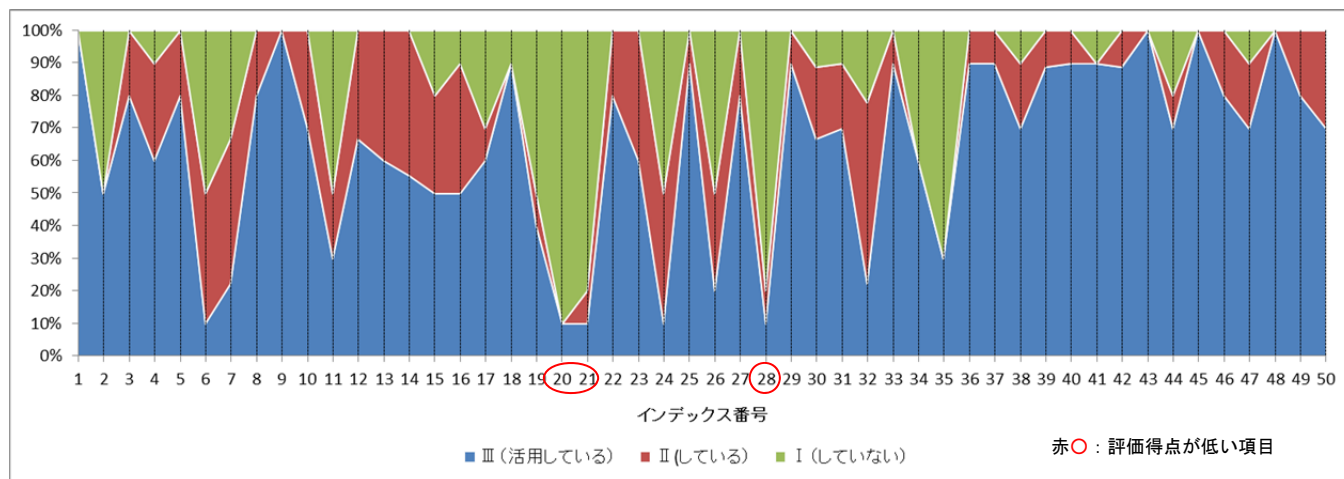


図 4. お茶大インデックス評価結果 (得点上位 10 機関)

一方、図 5 に示す得点下位 10 機関は、「I.していない」の回答が多いものの、インデックス番号 (1)、(8)、(22)、(29)、(33)、(38)、(43)、(45)、(48)、(50) に見られる「女性研究者を支援する組織」や「女性比率の把握」、「柔軟な勤務体制の導入」、「研究補助者の配置」、「ホームページやメール等による情報発信」、「ハラスメント防止」、「男女共同参画に対する意識啓発」の得点は高い。中でもインデックス番号 (1) 女性研究者を支援する組織の設置、(33) ホームページによる情報発信、(45) ハラスメントを防止するための取組については活用度も高いことから、支援活動を十分に実施できない状況においても、これらの取組は導入・実施がしやすいと考えられる。

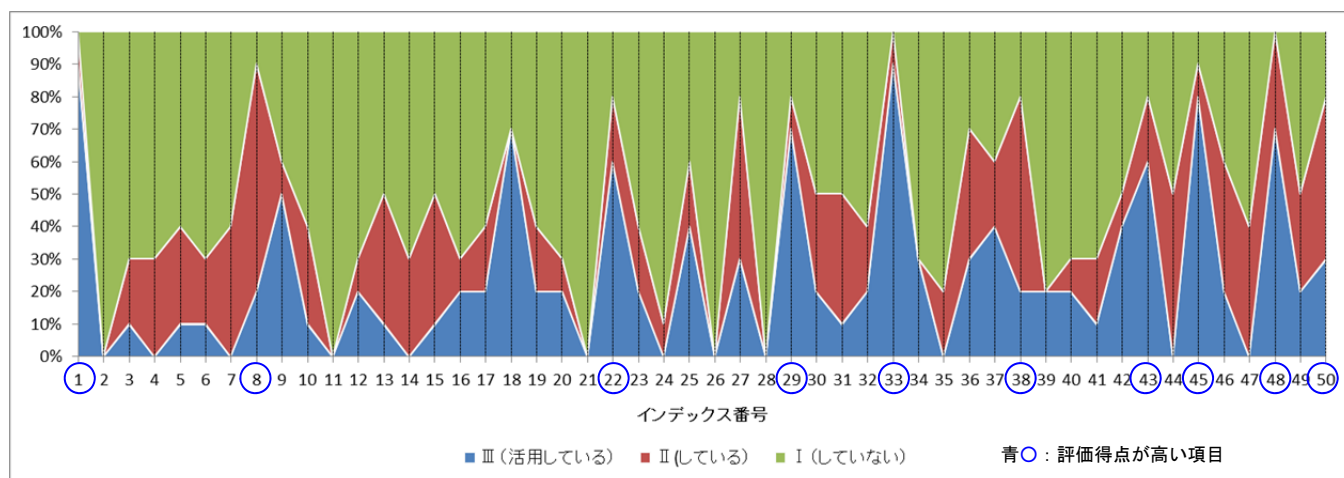


図 5. お茶大インデックス評価結果 (得点下位 10 機関)

お茶大インデックス評価結果 46 機関における支援バランスの特徴

お茶大インデックスは、教育研究機関における雇用環境の整備状況を「組織」、「勤務体制」、「子育て支援」、「研究教育支援」、「情報支援」、「次世代育成の取組」、「意識啓発の取組」の 7 項目に大分類し、それぞれの細目を作成して 50 項目で構成されている。

ここでは、7 項目の活用バランス、すなわち支援のバランスがどのようなものであるかを明らかにするために、大分類された 7 項目それぞれに得点割合（100%は満点）の平均値を算出した。結果を図 6 に示す。

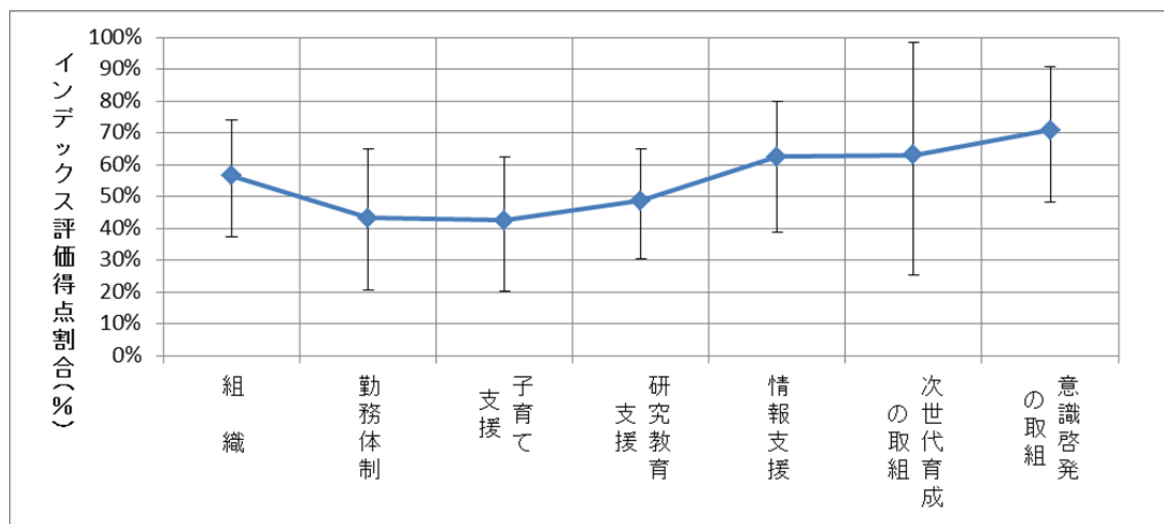


図 6. お茶大インデックス 支援バランス（46 機関における評価得点割合の平均値）

図 6 が示す通り、7 項目のうち「意識啓発の取組」の得点割合が最も高く、「情報支援」、「次世代育成の取組」と続いている。しかし、「次世代育成の取組」は昨年度と同様にバラツキが大きく、実施できている機関とできていない機関に差がみられた。そこで、46 機関それぞれに算出した 7 項目の支援バランス（得点割合）を用いてクラスター分析（類似性の高いものをグルーピングする方法）による解析を行った。

その結果、図 7 に示す通り、支援バランスの特徴により 46 機関を 5 グループに分類することができた。

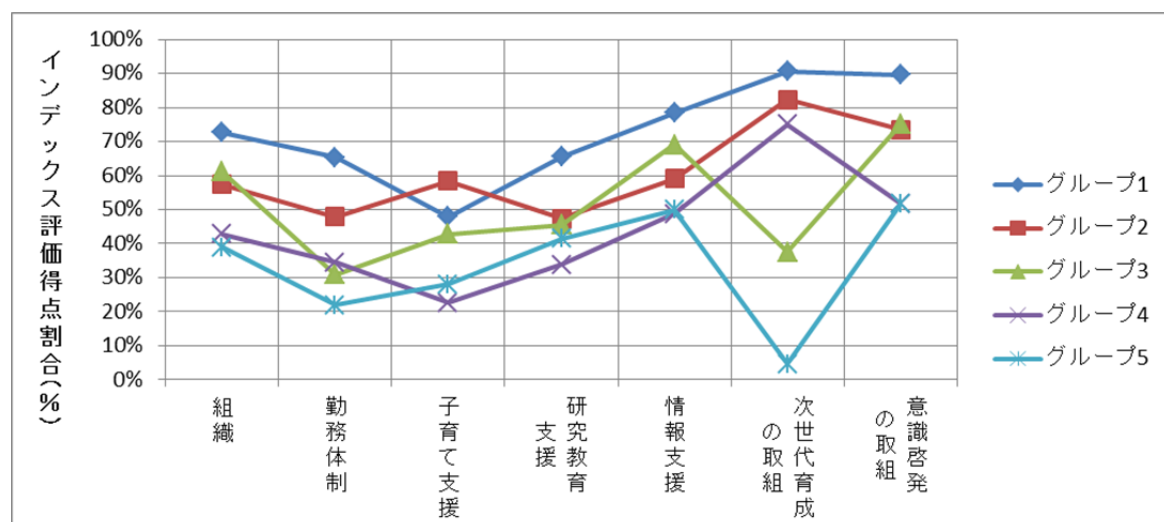


図 7. お茶大インデックス評価 46 機関における支援バランスの特徴

各グループを構成する機関の特徴は以下に示す通りである。

【グループ 1】 全体的に支援が行き届いている機関（子育て支援以外の支援充実）（12 機関）

「子育て支援」以外の項目すべてにおいて得点割合が特に高い特徴を有するグループである。中でも「次世代育成」と「意識啓発」の取組については実施率 90%と非常に高い。総合得点が 72.1 点と非常に高く、2011 年度以前に女性研究者支援事業に採択された機関で構成されている。上位 10 機関を含んでおり、12 機関中 11 機関が国公立の大学である。

【グループ 2】 全体的に支援が行き届いており、子育て支援が最も充実している機関（12 機関）

5 グループの中で最も「子育て支援」の得点が特に高い特徴を有するグループである。総合得点は平均点よりやや高く（58.9 点）2011 年度以前に採択された国立大学・独立行政法人、大規模私立大学で構成されている。

【グループ 3】 「組織」、「情報支援」、「意識啓発」に力を入れている機関（7 機関）

7 項目の支援バランスの中でも「組織」、「情報支援」、「意識啓発」の得点が高い特徴を有するグループである。総合得点は平均点付近（53.1 点）であり、工学系大学や地方大学、独立行政法人で構成されている。

【グループ 4】 特に「次世代育成」に力を入れている機関（7 機関）

支援バランス 7 項目のうち、「次世代育成」の得点が最も高い特徴を有するグループである。支援事業採択後 3 年以内の機関が多く、総合得点は平均点よりもやや低い 42.1 点であった。国公立大学と私立大学が半数ずつで構成されている。

【グループ 5】 支援活動初期段階の機関（8 機関）

他のグループの中でも総合得点は 36.8 点と最も低く、採択後 3 年以内の支援活動初期段階の機関で構成されている。「次世代育成」の取組はほとんどなされていないものの、「意識啓発」や「情報支援」などの取組は他のグループと同様に実施しているグループである。

46 機関におけるお茶大インデックス評価結果 まとめ

女性研究者支援事業が開始されて 9 年が経過し、お茶大インデックスを用いた全国の研究機関の雇用環境評価も 5 回目となった。継続的な経年変化の分析では、支援活動が継続的に実施され、かつ、総合得点も増加傾向にあることが明らかになった。さらに、7 項目の支援バランスをもとに、46 機関を 5 グループに分類し、事業実施のステージ（期間）や機関の特徴（支援活動の期間、国立と私立、地方大学、独立行政法人等）を抽出することができた。雇用環境整備および女性研究者支援方法の改善に資するため、本調査を今後も継続的に実施し、統計データと分析結果を発信して行く予定である。

お茶の水女子大学における お茶大インデックス評価結果

お茶の水女子大学は、女性研究者支援モデル育成事業（2006 年度～2008 年度）を経て、2009 年度より本学独自の事業として雇用環境の整備と研究者支援を継続・発展させてきた。また、2014 年度には、本学と芝浦工業大学、物質・材料研究機構の 3 機関が女性研究者研究活動支援事業（連携型）に共同申請し、採択されている。本学における 2011 年度の総合評価得点は 62 点、2012 年度は 68 点、2013 年度は 70 点となった。2014 年度は 72 点となり、微増傾向が続いている。得点の増加がみられたのは以下の 1 項目である。なお、得点減の項目は見られず、これまでの支援活動が維持・拡大される結果となった。

<得点の増加がみられた項目>（カッコはインデックス番号を示す）

（37）女性研究者を支援するための他キャンパス・他機関・地域との連携

【2013 年度評価】 「していない」 【2014 年度評価】 「連携されている」

増加理由：2014 年度に女性研究者研究活動支援事業（連携型）に採択され、他機関（芝浦工業大学、物質・材料研究機構）との連携による女性研究者支援事業に取り組んでいるため。

【付録】 お茶大インデックス評価結果 総合得点一覧

お茶大インデックスの評価結果（表 1）を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は 55.1 点（昨年度より 0.4 点減）、最高点は 79 点、最低点は 21 点であった。

表 1. お茶大インデックス 評価結果 (総合得点降順)

ID	「お茶大インデックス」得点							
	総合得点	1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組 織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援	次世代育成の取組	意識啓発の取組
最高点	100	18	12	12	22	12	8	16
017	79	15	10	6	16	10	6	16
049	78	14	10	4	16	10	8	16
030	76	9	10	10	17	8	8	14
026	73	15	7	5	14	8	8	16
060	73	12	7	8	17	8	8	13
お茶の水女子大学	72	14	8	7	13	10	8	12
002	72	12	9	5	15	9	8	14
035	72	12	10	7	15	9	4	15
019	70	15	6	4	13	10	7	15
015	68	16	8	3	11	9	8	13
033	68	13	6	9	12	9	7	12
045	68	10	5	6	13	12	7	15
046	65	11	6	8	9	9	8	14
010	64	13	4	4	13	10	7	13
036	63	10	8	4	13	8	8	12
056	63	11	4	9	10	9	7	13
004	62	9	6	6	13	7	8	13
055	62	14	6	6	10	10	3	13
070	60	11	7	7	14	6	5	10
052	59	15	5	6	11	8	4	10
067	58	10	6	9	8	7	4	14
031	57	10	8	7	4	8	7	13
043	56	14	5	8	11	5	0	13
058	55	11	4	6	11	7	6	10
025	53	9	6	8	12	6	5	7
061	53	7	4	5	8	5	8	16
020	52	7	5	4	14	9	3	10
042	50	9	3	5	10	8	2	13
057	50	12	4	6	11	4	6	7
048	48	9	5	1	9	9	6	9
009	47	9	2	4	10	7	4	11
051	46	9	4	3	8	6	6	10
063	46	9	0	3	4	11	5	14
066	46	10	4	4	8	5	5	10
003	45	12	6	0	14	6	0	7
062	44	9	6	2	10	6	6	5
071	44	6	3	6	10	6	0	13
065	42	5	6	4	5	6	5	11
068	42	7	3	6	12	8	0	6
050	41	4	2	3	11	9	1	11
064	40	6	2	5	10	4	6	7
037	35	7	2	4	7	5	0	10
014	33	7	1	2	9	6	2	6
069	33	9	4	1	6	5	0	8
059	29	6	2	0	2	5	8	6
007	21	4	0	5	4	3	0	5

謝辞：本調査を実施するにあたり、全国の多くの教育研究機関の皆様にご協力を賜りました。
心より感謝の意を表します。